

記録の情報科学

－技と知の記録と応用－

主催 / 名古屋大学大学院情報科学研究科 共催 / 名古屋大学 工学部電気電子・情報工学科、情報文化学部

2011年8月27日(土) 13:30～16:00

名古屋大学 IB電子情報館 015講義室 地下鉄名古屋大学駅3番出口地下1階直結

聴講無料 どなたでもご聴講頂けます。奮ってご参加ください。参加申込・お問い合わせはメールで gsis@is.nagoya-u.ac.jp へお願いします。

研究科 URL <http://www.is.nagoya-u.ac.jp/>

情報科学で技を分析する

間瀬健二 教授 13:30～14:30

私たちは、いろいろな技(わざ)や技能を駆使して

もの作りやスポーツを行っています。

大量の映像処理技術、運動センシング、

さらにそれらの分析・可視化がこれらの技能指導に役立つことが期待され、

使われ始めています。

ここでは、もの作りの基本と言われるヤスリ掛けの技を分析した例や、

スポーツ鑑賞への応用などの話題を切り口にして、

情報科学と技の分析についてわかりやすく紹介します。

知識のライフログ・ディスカッションの記録と応用

長尾 確 教授 14:45～15:45

複数の人間の行う知的活動の代表的なものにディスカッションがあります。

私たちは、ディスカッションの構造を半自動的に解析する仕組みを発明し、

研究室におけるディスカッションを長期間に渡って詳細に記録し、

それを自分たちの活動に適切に反映させる方法を研究してきました。

その結果、ディスカッションの記録が、知識のライフログと呼べるような、

人間の知的生活にとって大変有意義なものであることがわかってきました。

本講演では、そのような人間の知識の記録がどのように作られ、

どのように利用されるかについてお話します。

